

平成二十六年 徳川園紅葉祭 小学生・中学生俳句大会

平成26年11月1日から11月30日まで「徳川園紅葉祭」の一環として開催した「小学生・中学生俳句大会」は、投句数にして890句のご応募をいただきました。たくさんの方々のご参加、誠にありがとうございました。

審査会を行った結果、最優秀作品 小学生の部二句、中学生の部二句、入選作品 小学生の部五句、中学生の部五句を次のとおりに決定いたしました。
(賞・部門ごとに学年順・五十音順)

◆審査会委員 (五十音順)

井澤 昭雄 (四日市中日文化センター講師、ともしび詩舎同人)

加藤 啓子 (公益財団法人徳川黎明会 徳川美術館 企画推進部 課長)

桐原 千文 (名古屋市蓬左文庫 文庫長)

岩田 正雄 (公益財団法人名古屋市みどりの協会・岩間造園グループ 徳川園事務所 所長)

《最優秀作品・小学生の部》

名古屋市立 矢田小学校 (東区) 一年 林 秀環 さん

きたかぜが あきをとおって たびにでる

北風きたかぜがふくようになると秋あきの深まりふかを感じかんじます。

そろそろ冬ふゆになりますよと北風きたかぜが教えおしにきてくれます。その北風きたかぜは次の場所ばしょに冬ふゆが来るくことを伝えつたにもっと北きたのほうに旅たびに出でるのですね。

「きたかぜ」を冬ふゆのおとずれを知らせる旅人たびびととしてあらわしたところころがすばらしいです。

【審査員 加藤 啓子】

《最優秀作品・小学生の部》

名古屋市立 旭丘小学校（東区）二年 草間 美鈴さん

十五夜のおだんごみたい お月さま

秋の夜空に光を放って、くつきりとしかもふくよかにたつぷりとした美しい円をえがく十五夜の月。その姿に大人も子どもも、自然に感嘆の声をもらします。

「おだんごみたい」という小学生らしいひと言で、人々をうならせる十五夜の月のたぐいまれな美しさが充分すぎるくらいに表現されていて見事です。

【審査員 桐原 千文】

《最優秀作品・中学生の部》

金城学院中学校（東区）一年 中村 桃子さん

やさしい火 心にともる 灯りみち

ライトアップされた紅葉の雰囲気を一層盛り上げるため、園路を行灯などの灯りで照らした「紅葉灯りみち」を設置しました。

ほんのりとやさしいロースクの灯りがゆらけている姿を詠われたと思います。錦秋の見応えがある華やかな紅葉とは異なって、灯りみちのほんのり心残る温まる静かな情景が表現されている句と思います。

【審査員 岩田 正雄】

《最優秀作品・中学生の部》

名古屋市立 富士中学校（東区）三年 朱鳳亭さん

夕焼けに 負けじと色づく 紅葉かな

清少納言は「枕草子」の中で秋の夕暮れは四季の中でも最も魅力ある時間帯の一つと述べています。

澄み切った秋空の夕焼け、しかもそれはつるべ落としの瞬間です。作者はその一瞬に龍仙湖畔の紅葉を対比させて作句されました。情景が眼に浮かびます。

【審査員 井澤 昭雄】

《入選作品・小学生の部》

名古屋市立 明倫小学校（東区）一年 中琳音さん

もみじたち よるのあかりに ほほそめる

名古屋市立 山吹小学校（東区）一年 猪飼 倫太郎さん

はっぱをね みんなでふんだら おんがくかい

《入選作品・小学生の部》

名古屋市立 旭丘小学校（東区） 五年 尾崎 おぎさき 匠 しやう さん

次々と スズメの襲撃 バケツ稲

名古屋市立 矢田小学校（東区） 六年 鈴木 すずき 重統 しげと さん

夕はんは ぼくが拾った 栗ごはん

名古屋市立 明倫小学校（東区） 六年 糀本 こうじもと 佳純 かすみ さん

歩みゆく 秋風と共に 人生を

《入選作品・中学生の部》

名古屋市立 桜丘中学校（東区） 二年 森 もり 貴博 たかひろ さん

水鏡に 極彩色の 万華鏡

《入選作品・中学生の部》

名古屋市立 桜丘中学校（東区）二年 伊藤 いとう かこさん

半袖の 私に吹く風 秋教え

東海学園 東海中学校（東区）一年 三島 みしま 隆太郎 りゅうたろう さん

満月だ 道長も見た 京の空

東海学園 東海中学校（東区）一年 桂川 かつらがわ 昂 こう さん

さんまの目 じっと私を 見つめてる

東海学園 東海中学校（東区）一年 林 はやし 悠太 ゆうた さん

せせらぎの 流れに遊ぶ 散り紅葉